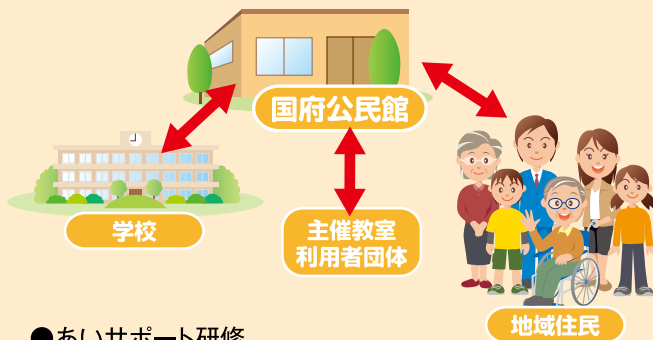


あいサポート運動の

取り組み内容

- 同じ福祉を目的とする国府地区社会福祉協議会、地区民生児童委員協議会との3者連携体制
- 学校支援地域本部事業…公民館が中心となり、地域を挙げて学校を支援



- あいサポート研修
  - ・有福ふれあい通学合宿  
(2泊3日、浜田市立有福小1~6年生15人)  
有福分館を会場に、障がいやあいサポートについての講習や手話を使った自己紹介など、子どもを対象にした初の取り組み
- 看板、チラシ、公民館だよりなどを媒体としたPR(毎月発行の公民館だよりに、研修会開催状況と障がい者との交流活動を掲載)



活動を行って

苦労したこと、工夫したこと

- いつでもどこでも、要望があれば出前講座を実施する
- 障がい者との交流事業を積極的に取り入れる
- 難しい専門用語を避け、できるだけ平易な呼びかけに努める
- ありきたりの研修だけでなく、自分たちでどういったことができるのか、研修後にサロンの会話を取り入れる

今後の展望、目標

個別障がい者サポーターを「縦割り」行政、だけで進めるのではなく、あいサポーターの中で受講者の関心度により研修を進めるべきではないかと提言している。運動を通じて手話教室の会員は大幅に増加し、サポーターと障がい者との交流活動も盛んになってきた。今後もより一層、触れ合い交流活動を広め、国府地区に限らず、市民全般に広がるよう公民館から発信したい。

代表者のコメント

館長 湯浅 勝



メッセージャー(職員)の熱意により、地域の人と人をつなぐ「絆広がる運動」として定着してきた。特に障がい者とのふれあい交流活動が盛んになったことは一つの成果であり、一層推進していきたい。

●問い合わせ・連絡先  
TEL・FAX  
0855-28-1270

あいサポート♡  
メッセンジャーに聞く

## 進木 紀子 さん

倉吉市障がい者地域生活支援センターはっぴい 相談支援専門員



### 双方に運動広げ、 地域共生社会目指す

あいサポートメッセンジャーになっただきつかけを教えてください。

障がいのある人もない人も暮らしやすい共生社会を目指す「あいサポート運動」が2009年に鳥取県で始まり、その主旨に賛同してあいサポーター研修を受講しました。障がいのある人の相談支援専門員として働いていますが、障がいに対して正しく理解されていなかったり、周りの協力があればいいのと感じることが多々ありました。10年、あいサポートメッセンジャーの養成研修があり、あいサポート運動を啓発することが今の自分にできる役割ではないかと強く感じ、メッセンジャーになりました。

日頃、あいサポート運動、あいサポーターについてどのように感じていますか。

あいサポートバッジをつけている人や、あいサポート企業に認定されたステッカーが張ってある企業

をよく目にします。先日、飲食店であいサポートバッジをつけた店員さんが、障がいのある人に丁寧に対応されている姿を見てとても温かい気持ちになりました。決して障がいを特別視することなく、自然体で関わる。何げない気配りや優しい言葉かけが当たり前ができる。これはあいサポート運動の効果ではないでしょうか。こんな姿が地域のあちこちで見られるようになったら、障がいの有無に関わらず、みんなが暮らしやすい街になりますよね。そんな地域をあいサポート運動を通して作っていただけたらと思います。

活動の中で苦労したことはありますか。

ハートフル駐車場に障がいのない人が駐車していたり、点字ブロックの上に自転車が停めてあったりする光景を目にすると、障がいに対して十分理解されていないと感じます。あいサポート研修を受けて

も日常生活に生かすのは難しいのかもしれませんが、一歩踏み出す勇氣を持って行動に移してほしいと思います。

あいサポートメッセンジャーとして大切にしていること、伝えたいことは何ですか。

福祉サービスやさまざまな制度を利用して生活は豊かになりません。やはり、一番近くにいる隣近所の住民や「元気？」と声をかけてくれる地域の人、困ったときに「何か手伝いましょうか」と手を差し伸べてくれる人たちの支えは不可欠です。1人でも多くの人にあいサポーター研修を受けてもらい、障がいに対する理解や関わり方を知っていただくことで、共に分かり合い、支え合うことができると思います。1人の力は小さいですが、みんなが同じように考えたら地域の大きな力になると思います。



▲学生を対象にした「あいサポーター研修」

### 今後の展望

県内外にあいサポート運動が広がっていることをとてもうれしく思います。今は障がいのない人への啓発活動ですが、障がいのある人の中にはあいサポート運動のことを知らない人もたくさんいます。今後は双方にこの運動を広げ、地域の一員として共に生きる社会を目指したいと思います。

あいサポート♡  
メッセージャーに聞く



## 角 喜美江 さん

社会福祉法人 遊歩 吾赤紅施設長

### 障がいのある人も 参加する運動に拡大を

あいサポートメッセージャーになつたきっかけを教えてください。

障がいのある人たちが外の世界に出ると対人関係やいろいろな場面で生活しづらい様子を見てきて、地域の人たちに障がいについて知ってもらう必要を感じてきました。そこで、弁当の配達や出張紙すき教室など外に出て地域と触れ合える作業にも取り組み、学校を訪問して障がいに対する人権問題も考えてきました。あいサポート運動の「障がいを知る」「少しのお手伝い」という趣旨が私たちの活動と一致していたので参加しました。今は、人に声を掛けたり声を掛けられることが警戒される世の中なので「バッジによって障がいのある人と手助けしたい両者を取り持てたらいいな」と思いメッセージャーになりました。

日頃、あいサポート運動、あいサポーターについてどのように感じていますか。

私は、地域で障がいのことを知ってもらうためにも障がいのある人たちが運動の中心になるべきだと思っています。もちろん、知的障がいの場合はそばに見守り者がいて一緒に活動することになりますが、障がいのある人が、あいサポート運動を支えていく戦力になればと思っています。講演会では、中学生や高校生の皆さんが熱心に耳を傾けてくれ、行動にうつしてくれるのがとてもうれしいです。社会人になる前の生徒、学生の人たちにこの運動をしっかりと伝えていきたいと思っています。

活動の中で苦労したことはありますか。

あいサポートバッジをつけている人がまだ少ないですね。福祉関係者には浸透していても一般にはほとんど浸透していない状況だと思っています。もっとバッジの存在感が示せるようになるといいと思います。

ただ、押し付けや強制にならないようにぼちぼちと広めていく、共感してもらうことが大切だと思います。

あいサポートメッセージャーとして大切にしていること、伝えたいことは何ですか。

障がいにもいろいろな種類があるので、まずは皆さんに知ってほしいと思います。そして障がいのある人もこの運動と一緒に参加し、変わっていくことが大事だと思います。私は講演会その場でバッジを渡しません。ゆっくり考えてやってみようと思った人に届けています。あいサポート運動について考える、やってみようか考える、その時間や過程が大切だと思っています。焦らずゆっくりでいいので、行動できる本当の力を持ったサポーターを増やしていきたいと思っています。

### 今後の展望

もっとあいサポートのバッジを付けた人が増えていき、究極の目標はあいサポートのバッジやあいサポート運動がいらなくなって、自然に誰もが助け合い、障がいのある人も社会、地域の中に溶け込んでいるそんな姿がこのサポート運動の先にあれば良いと思いますし、そうあるべきだと思います。



▲人権講演会で角さんの話聞き入る中学生

## あいサポート♡ 運動の概要



### あいサポーターの養成

多様な障がいの特性、障がいのある人が困っていること、障がいのある人への必要な配慮などを理解して、日常生活において障がいのある人が困っているときなどに、ちょっとした手助けをする意欲がある方であれば誰でもなることができます。  
(特別な技術の習得は不要です)

### あいサポーター研修の実施

「あいサポーター」普及のため、地域や学校、職域などの研修において、出前研修「あいサポーター研修」を行っています。

### 「あいサポート企業・団体」認定制度

「あいサポート運動」推進のため、従業員等を対象とした「あいサポーター研修」等に取り組む企業・団体を「あいサポート企業・団体」として認定しています。